

3月3日は耳の日 耳の疾患にかかりやすい犬種 NO.1 は・・・？

アニコム損害保険株式会社（代表取締役社長：小森伸昭）では、アニコムクラブの「どうぶつ健康保障共済制度」の給付金請求データを基に、耳の疾患の発症割合について犬種別の集計を行いました。

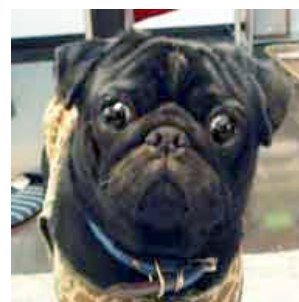
その結果、犬全体の平均は16.3%で、最も高い値を示したのが「パグ」の32.0%、次いで「フレンチ・ブルドッグ」の28.1%、「ゴールデン・レトリバー」の27.7%であることがわかりました。

犬の耳の疾患で多く見られるのは外耳炎で、湿気や異物、細菌、真菌、耳ダニなどの寄生虫、アレルギーなどが原因で発生します。「パグ」や「フレンチ・ブルドッグ」は、外耳道が狭くなりやすいという犬種特有の構造と合わせて、もともとアレルギーなどの皮膚病も発症しやすいことから、外耳炎に罹ってしまうことが多いと考えられます。

外耳炎は、治療が遅れると慢性化する場合もあるので注意が必要です。日頃から、耳垢の量や色、耳の臭いをチェックするとともに、定期的に耳そうじを行って予防を心がけてあげましょう。

犬種別 耳の疾患発症割合（単位：％）

犬種	割合
パグ	32.0
フレンチ・ブルドッグ	28.1
ゴールデン・レトリバー	27.7
キャバリア・キングチャールズ・スパニエル	25.0
シー・ズー	24.9
ラブラドル・レトリバー	23.1
マルチーズ	22.7
トイ・プードル	17.5
ミニチュア・シュナウザー	17.3
柴犬	13.9
平均	16.3



パグ



フレンチ・ブルドッグ

【集計方法】「どうぶつ健康保障共済制度」契約始期日が2006/10/01から2007/09/30の222,374頭の請求データを集計。
1年間の契約期間中に、耳疾患で1日以上通院をした犬を「発症した犬」とし、各犬種の契約頭数に対して「発症した犬」の割合を算出した。